

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケア・パートナー森伸小俣 ユニット2		
所在地	三重県伊勢意思小俣町明野1308		
自己評価作成日	2021年12月20日	評価結果市町提出日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvsvCd=2470800885-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	4年	1月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・3か月に一度、サービス担当者会議を開き(家族様不在)、現状の把握や支援の変更などを職員(担当者)を通し、全職員に伝達し同じ支援ができるようにしている。
- ・月1回、MTを開催しサ担等での支援方法や介助方法を伝達している。
- ・全職員が出勤時に挨拶をし、異常発見や発語があるように声掛けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢市北部、近鉄明野駅のすぐそばに建つ事業所は、平成18年に開設され今年3月で満16年となる地域で長年親しまれてきた事業所である。同じ建物の中に保育園も併設されており、また道路を挟んでほぼ対面には同じ運営法人による別のグループホームも開設されているなど、一帯は地域福祉のランドマーク的な存在である。付近は農地と住宅地が混在する長閑な環境であるが、朝夕は近くの駅の乗降客で賑わい活気ある一面も見取れる。事業所施設としては1、2階の2ユニットであり、現在17名の利用者が共に生活している。職員は利用者の思いに寄り添いながら利用者本位の支援を掲げ、やがて明けるであろう“コロナ後”に向けて期待と準備に怠りのない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「一人の人を大切に」 小侯の理念「寄り添い、共に生きる」を基本に、ご利用者一人一人との関りを大切に、一人一人に合った支援を実践している。	運営法人の理念は開設当初に作成されたものを今も大切にしている。また事業所独自でも実践項目を設定し毎朝礼で唱和するなど浸透を図っており、職員はこれをよく理解し、その効果は現場での言葉や気遣いの変化となって表れてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、イベント等は中止させて頂いている為、地域との交流はできていない。	昨年の課題として、自治会長及び地域との交流を深めていく予定であったが、コロナ禍において思うに任せないのが現状である。今は僅かに近所への散歩時に挨拶を交わす程度であるが、コロナ後の様々な可能性に向け準備の段階である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中・高生の実習の受け入れや職場体験を行っていましたが、昨年は新型コロナウイルス感染予防の為中止。今年は明野高校生の実習受け入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年までは2か月に一度実施しておりましたが、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、中止していた。	今年度も前回同様に会議としては全く開催できず、ステップアップ項目であった文書等での報告や意見聴取も達成できないままである。コロナ終結が待たれるが、それに先立ちます昨年できなかった目標達成に向けた方策を職員皆で検討しているところである。	地域密着型の事業所において運営推進会議は欠かすことのできないものであり、昨年度のステップアップ項目であったように会議が難しければ、文書やオンライン会議など可能な限りの手法を検討し、本来の目的が達成されるよう努力に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定や生活保護等はケアマネが関係各課と連携を取ってくれている。不明な点に関しても、確認したり等協力関係を気づける様取り組んでいる。	行政との対応、介護保険の運用や入居の相談などは市役所支所が包括支援センターの窓口で完結している。また市からのオンラインでの研修についても、昨年発生した技術的な問題が解消され、ほぼ毎月1回全員が研修参加している状況である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の参加や拘束委員会を実施し話し合いを行っている。ユニット入り口に関しては、ドアセンサーを設置し施錠しない方向に取り組んでいるが、1年未満に入居者様が入り口から出たこともあり危険回避の為、現在施錠を行っている。	運営法人によるマニュアルに基づき定期的な研修会を行う他、3か月に1度、管理者やケアマネジャー、ユニット代表職員らで構成された防止委員会を開き、現状報告と分析や対策等を議論するなど事業所及び職員の拘束防止意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等で職員が認識している。入浴介助時や着交時にご利用者様の尊厳を守りながら全身観察を行っている。身体に何かあった場合は報告するように伝達を行い、原因追及を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い、職員が学ぶ機会もある。ご入居様は地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連携を取りながら進めていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を見て頂きながら説明し、理解して頂ける様説明を行っている。改定等でコロナ禍の際には、資料を郵送させていただき、手元に資料がある状態で電話にて説明させて頂き、理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に、ご入居様様の日々の状態をお伝えし、意見・相談を伺っている。伺った意見等は、全職員に伝達し、検討した後に反映させている。	コロナ禍の現状、利用者家族との会話は電話や手紙などになりがちであるが、事前予約と時間、場所などの制約を設けながらも直接面会を積極的に進めており、家族からの意見聴取の機会を見出ししている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを大事にしており、普段業務をしながらや申し送り、連絡帳での伝達を行っている。職員の意見等は月1回の部署会議やMTなどでも話し合いを行い、反映している。	ユニット、或いはユニット合同など月3回は何らかの形で職員会議を開き意見聴取の機会を設けている。また年2回は管理者と職員のマンツーマンの話し合いを行っており、自由に意見が出せるような環境づくりに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務申告書やリーダー研修等を取り入れ、スキルアップの為に業務ステップを使用し、一人一人のステップアップや目標を持ち、働ける環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度社内研修を設けて参加していただける環境を作っている、個人では、ステップを持ち入り達成状況を把握、未達成の項目については、現場でのトレーニングも一緒に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、外部研修はなく、同事業所でのリーダー研修やIT推進委員会などの参加により、他部署への交流を深め、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談等で困りごとや希望等伺い、話し合いを持っている。入居後もその時に発生した言葉や状態を記録に残し情報を共有し信頼関係を築き、安心して過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話を伺い、施設見学も行っている。困りごとや要望等話を伺い、家族様の不安や困りごと等を解消し、安心して任せて頂けるような関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に話を伺い、困っている事や問題点を見極め、適したサービスや施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様一人一人できることを見極め、掃除や洗濯もの干し、食器の片付けなどを一緒にいき、日課にできるよう声掛け等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人様の様子をお伝えしたり、受診等ご家族様にご協力いただけるときはご協力頂き、ご家族様とともにご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中でご本人様の生活状況を確認しながら、話題を引き出し忘れないよう努めている。	現状の社会情勢のなか、以前の様に事業所を訪ねてくれる人もなく、また利用者も出掛けることはなくなっている。そんな中アセスメントの事項や家族から聞き出した利用者の来歴を話題にし、一種の回想法として本人の想いを大切にしながら支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、席を決めたり、移動して頂いたり、会話が困難な場合などは職員が間に入り、ご利用者様同士が関わり合い、支えていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご家族様からの状況の連絡等があった場合には快く台頭させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関りの中でその方の思いや希望、意向の把握に努めている。その方らしい生活ができるよう対応を行っている。	会話による意思の疎通が難しい利用者には表情や普段の生活の変化を見逃さずその都度対応を工夫している。また入居前の職業や生活習慣などを再確認するなかで利用者の希望や想いを把握し、職員全員で共有しながら支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でやご家族様からの情報や入居前のサービス提供施設等からの情報などで把握し、入居後も会話や関りの中でこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日での状態や現状を把握し、職員間の伝達及び経過記録等を活用し、状況に応じた関わりや支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3か月に一度アセスメントを行っている。ご本人様やご家族様に計画の変更ある場合には連絡させていただき、現状に即した介護計画を作成している。	入居後1か月は仮計画によりモニタリングを行い、その後、管理者・ケアマネージャー・担当職員などで3か月計画を作成し、家族を始め関係者に確認して本計画としている。ケアカンファレンスは3か月に1度、変化があればその都度対応しており、細かく配慮された計画作成である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の行動や言動、いつもと変わった事等あった場合は、記録を残すとともに伝達等で職員間の情報共有を行っている。職員間でも支援方法の意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回のモニタリングで状態報告をさせて頂いている。可能な限りご家族様の協力を得て支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に散髪や口腔ケアなど来ていただいている。散髪はご本人の希望等でパーマ等も当てて頂き、暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医による往診と歯科衛生士による口腔ケアを定期的に行っている。その他にご本人からの訴えや異常・変化が見られた場合等、看護師に相談しご本人・ご家族様に了承を得て職員同行で病院受診を行っている。	事業所から車で10分程度で行ける協力医は月1回の訪問診療のほか24時間対応が可能である。歯科については歯科医師による診療の他、希望者に週1回の口腔ケアを行っている。このほか他科については家族が対応しており医療受診は充足していると云える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、表情や異変などに気づいた時は、看護師や訪問看護師に報告し助言を頂き、適切な処置及び必要に応じた受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、安心して治療を行えるよう症状など情報交換を行い、連携を取り早期退院に努め、退院後も安心して生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向はお伺いしている。また、その段階になった場合再度、ご家族様と相談・意向の確認を行い、寄り添うことができるようご家族や看護師、主治医と連携を取っている。	看取りについては実施の方針であり、昨年は3件の実績があった。家族・利用者には入居時に説明し同意書を得ているほか、その時になれば改めて契約書を交わしている。職員教育には管理者他経験豊富な職員が実地で指導し、担当職員もこれによく応えており体制は万全と云える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や社内研修、資格研修などを通し、急変時や事故発生時の際の初期対応の訓練などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や研修を行い、消火器の使用手法や設置場所などの確認を行っている。社内での安否確認メールでの訓練も行っている。	年2回、避難・通報・初期消火などの訓練を行っているが、地域の訓練にはコロナの影響もあり参加できていない。また、防火管理者を選び「防災訓練マニュアル」を明文化するのが昨年度からの課題であったが未だ達成できていない。	いつ起こるとも知れない自然災害、また火事等に備えて防火管理者の設置は不可欠であり、防災訓練マニュアルの明文化と併せて喫緊の課題である。更に地域との連携も重要であり、これら課題の解消に積極的に取り組まれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度等職員で気をつけている。排泄や入浴時は羞恥心を傷つけないようにしている。記録等に関しては、第三者に見られないよう注意を払っている。	プライバシーの確保については事業所における個人情報全てを電子化しており、職員はタブレットにより記録・確認を行っている。また個々のケアにおいては、呼称であったり部屋への出入りなどにノックで配慮するなど、利用者の側に立った支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断ができるご利用者様には選択できることや希望を聞いてその日の状態によって自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態に合わせてご利用者様のペースに合わせた支援を行っている。休みたい時等、本人の希望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ(髭・整容)は毎朝できる方には行って頂き、出来ない方は支援させて頂いている。衣類に関しては、ご自身で選んで着ている方もいる。たまに化粧をされているご利用者様もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安心して食べて頂ける様、ご利用者様一人一人の食事形態にしている。茶碗や箸などは使い慣れたものやご家族様に持ってきていただいた物を使用し、食べ終わるとご利用者様と食器類の拭き上げを一緒に行っている。	食事はご飯・汁物などを職員が交代で調理し、主菜などは配食業者から購入したものを盛り付けて提供している。食事風景は総じて穏やかであるが、一部の利用者は片付けなどの手伝いをすることもあり、入居前の習慣を彷彿とさせる場面もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は日々記録に残している。その日の摂取量を把握し、おやつ時などはご利用者様の好きな飲み物を提供している。栄養面は食事を全量摂取されないご利用者様はアルコールを飲まれている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行える方は声掛けしながら行っている。できないご利用者様には介助にて行う。定期的に歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、見守りや介助を行っている。その日の体調に合わせた支援を行っている。	利用者の内、殆どが一部介助を受けながらトイレで済ませている。これは一人ひとりの癖や習慣をよく理解した職員の誘導によるものであるが、これらの情報の元となる管理表をタブレットで運用している機動性が支援のあり方をより良いものとしていられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立している方に関しては、排便の確認を行っている。便秘気味の方に関しては、運動したり、白湯を飲んでいただく等行っている。腹部マッサージや医師の指示のもと下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調を考慮しながら週2～3回入浴していただいている。入浴時の声掛けを行い、温度や室温にも気をつけながら入浴していただけるよう支援している。	入浴の回数は夏場は週3回、冬場は2回としているが、気温の変化や利用者の状況などにより臨機応変に対応している。時間帯は特に定めず利用者の希望や状態を見ながら支援しており、楽しめるリラックスできる入浴となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調にも応じて居室で休んで頂ける様声掛けしたり、居室は時候に応じて寝具の調整や温度調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報・服薬チェック表をファイル化し、目的や錠数等確認できるようにしている、薬が変わった場合や錠数の変更等があった場合は伝達やノートを使用し情報共有しご利用者様の体調の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事を手伝っていただいたり、やりたいところを発見し行える様に努めている。天気の良い日などは、散歩などにも声掛けし気分転換も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はご利用者様と施設周辺を散歩しており、近隣の方などに挨拶している。コロナ感染に注意しながら買い物等にも一緒に行ったりしている。	コロナ禍までは買い物やちょっとしたドライブなどで外出を楽しんでいたが、現在は殆どその機会が持たず、僅かに近所への散歩や事業所敷地内での外気浴程度である。今はコロナ終了後を見据えて以前の様な外出が出来るよう計画と準備の時であると考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を管理できるご利用者様がおらず、施設でお預かりし職員が管理している。欲しいものがある場合はご家族様に了承を得て購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の時は家族様に電話したり、かけてきていただいた電話でお話したりされている。コロナ感染防止に注意しながら、日時等連絡を取って直接面会も再開している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁には季節やイベントがある月などには壁絵や折り紙などで季節感を出している。自室やトイレなどはわかりやすいように張り紙をしている。	リビングは適度な広さがあり、掃き出し窓からの採光が部屋全体を暖かく明るいものにしている。またベランダには利用者の洗濯物が干されており、生活感がうかがえる。玄関から各居室につながる廊下は広く、まっすぐで歩行訓練に最適であり、利用者同士話し掛け合いながら行き交う姿を職員が見守っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には休めたり外を見たりできるような椅子を設置。食堂にはテレビの前にソファを設置したり、畳を並べ休めるようにしている。入居者様同士会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具や寝具等を持ってきていただいている。テレビを持ってこれれば自宅にいた時と変わらない生活をされているご利用者様もいる。	居室は全部屋が約7.3畳と十分な広さがあり、木質と白い壁で統一され清潔感がうかがえる。掃除は基本的に職員が行っているが、利用者が手伝うこともあり生活習慣のひとつとしている利用者もある。また、テレビやソファなどを持ち込んで居心地を楽しむ居室としている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。自立歩行やつかまり立ちができるよう支援している。洗濯などは職員と一緒にいき、安全を考えながら自立できるよう声掛けしながら支援している。		